

高知工科大学教職課程  
自己点検・評価結果報告書

令和6年8月

高知工科大学教職課程支援センター

## 目次

第1章	教育理念・学修目標	2
第2章	授業科目・教育課程の編成実施	3
第3章	学修成果の把握・可視化	7
第4章	教職員組織	9
第5章	情報公表	10
第6章	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	11
第7章	関係機関等との連携	12

## 第1章 教育理念・学修目標

### 1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・大学全体としての教員養成の理念及び計画が策定されているか、3つのポリシーとの相関が意識されているか
- ・学群・免許種ごとの教員養成の理念及び計画が策定されているか、3つのポリシーとの相関が意識されているか

#### (2) 自己点検・評価結果

本学は開学以来、「深い専門知識に加え、豊かな人間性と創造力をもった人材を養成する」ことを目標に掲げ、人材の育成に取り組んできた。教員養成においても、本学の教育理念を基礎としつつ、多岐にわたる教育学の各分野の専門知識を修得させ、加えて、生徒、保護者、地域社会から尊敬と信頼を得られるような、人間的に魅力のある人材を養成することを教員養成課程の目標として掲げることとしている。このことから、大学全体としての教員養成の理念及び計画は3つのポリシーとの相関が意識され策定されている。

各学群においては、昨年度に3つのポリシーとの関係を考慮しながら免許種ごとの理念の見直し、確認を行った。今後も大学、各学群において継続的に確認、見直しを行っていく必要がある。

### 2 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・学生や採用権者からの意見、高知県教育委員会との関係性を考慮した教員養成の理念・計画となっているか
- ・教員養成の理念・計画は適切なプロセスを経て策定されているか

#### (2) 自己点検・評価結果

本学教員養成の計画設定、実施については、各県教育委員会との折衝の機会や、各種の教育審議会関係、さらには実践交流を通じて、常に現場からのフィードバックに留意しつつ、授業などを通し学生の意見も集約して養成計画に取り組んできた。

教員養成の理念・計画は、直近では令和5年度に教職課程支援センターにおいて見直しが行われ、適切なプロセスを経て決定されている。引き続き、全学及び各学群レベルでの合意形成や周知にいつそう留意しつつ進めていく必要がある。

### 3 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教員養成の理念及び理念を達成するための計画について、学修成果や自己点

検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか

(2) 自己点検・評価結果

全学的には、個々の科目の授業評価や学修成果から学生の教員としての資質や能力等の状況を確認しつつ、同時に社会情勢や教育環境の変化等については定例会等で共有しながら、教員養成の理念や理念を達成するための計画に反映させるように努めている。

各学群においても学修成果や授業評価アンケートの回答を踏まえ、カリキュラムワーキンググループ等において点検を行い、カリキュラムの見直しを行っている。

教員養成の理念・計画の見直しについては、全学及び各学群レベルでの合意形成や周知にいっそう留意しつつ進めていく必要がある。

## 第2章 授業科目・教育課程の編成実施

### 1 複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況

(1) 自己点検・評価項目

- ・複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学群等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか
- ・共通開設科目など授業科目・教育課程について全学的に適切に編成されているか

(2) 自己点検・評価結果

複数の教職課程間における共通開設授業科目としての教育の基礎的理解に関する科目等に区分される科目について、全学的な教職課程科目の編成状況は科目開設時に教職課程支援センターによって確認されている。また、全学の教育センターとの連携も、両センター長が互いのセンターの委員となることで、科目の編成状況について円滑に情報共有を行うことができている。ただし、学修成果や自己点検評価を踏まえた全学的な対応には改善の余地があることから、今後は卒業生アンケート結果などを活用しさらなる改善につなげていく予定である。

### 2 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況

(1) 自己点検・評価項目

- ・ICT（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか
- ・教職課程支援室は適切に整備・活用されているか

## (2) 自己点検・評価結果

ICT 環境については、有線 LAN と無線 LAN を両キャンパスに整備し、授業では Moodle や Google classroom が頻繁に使用されている。またワークステーション室、理科実験室や模擬授業に使用できる黒板教室等に加え Chromebook 等の学習用端末も整備・活用されている。教職に関連する図書は両キャンパスの図書館及び教職課程支援室に排架されている。

教職課程に登録した学生向けに、両キャンパスの教職課程支援室に各教科の教科書や指導書、教員採用試験の過去問題等の書籍を設置している。また、黒板・ホワイトボード・電子黒板が設置され模擬授業に活用されている。今後小、中学校及び高等学校で段階的に導入が予定されているデジタル教科書については、課程認定されている教科に関しては学生がデジタル教科書に触れられるよう環境整備を進めていく。

## 3 教育課程の体系性

### (1) 自己点検・評価項目

- ・各免許種について、法令に基づいた必要な授業科目が開設されているか
- ・各免許種について、理念や計画に照らし教職課程科目の配置は適切か

### (2) 自己点検・評価結果

法令に基づき必要な科目を開講することができている。また、各科目は各免許課程の理念・計画と整合するように適切に配置されている。

## 4 ICT の活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性

### (1) 自己点検・評価項目

- ・ICT 活用指導力など、各科目を横断する重要な事項について、各科目間の役割分担や、到達目標、学修量等が適切か

### (2) 自己点検・評価結果

各免許課程に共通の教職専門科目においては、「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」(平成 30 年 6 月改訂)を参考に、ICT 活用指導能力を 4 年間を通じて身につけられるようなカリキュラムとすべく各配当授業内容を配置し、到達目標、学修量等を設定している。また教科指導法においても、各教科ともに 1 コマ (90 分) 以上の時間を割いて ICT (情報機器) の説明や使用を交えて授業を行っている。直近の課題として、授業「教育方法学」等において、デジタル教科書への対応を検討する必要があるが、導入や維持にはコストがかかるため、予算面を含め今後検討する必要がある。

各学群においても ICT スキルの基礎を育成する科目が配置されている。また学群の学びの特徴に応じ、ICT を用いてデータサイエンスやプログラミングの科目が学ばれている。

なお、全学的な視点から見た ICT 活用指導力の育成に向けた各科目間の役

割分担や、到達目標、学修量等の調整については検討の余地があるように思われる。

## 5 いわゆるキャップ制の設定状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・本学が導入している CAP 制度は教職課程履修者を含め有効に機能しているか
- ・1 単位あたりの学修時間が十分に確保されているか

### (2) 自己点検・評価結果

卒業要件科目について CAP 制度を導入し学修時間の確保ができるように努めている。

授業評価アンケートを通じて各科目の学修時間について把握し、1 単位あたりの学修時間が十分確保できるよう教育センターにおいて継続的に議論が行われている。

## 6 教育課程の充実・見直しの状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて各授業科目や教育課程の充実が図られるよう見直しが行われているか

### (2) 自己点検・評価結果

学修成果や自己点検・評価の結果を踏まえた各授業科目や教育課程の充実を図るプロセスは、本学では教育センター及び各学群で行われてきた。教職課程については定例会における情報共有等を通じて充実や見直しを図ってきたが、今後は教職課程における自己点検・評価を基に教育センター、各学群と連携して教職課程全体の教育課程の充実を図っていく必要があると思われる。

## 7 個々の授業科目の到達目標の設定状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・法令、教員養成の理念及び計画並びに学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムに対応した到達目標、授業計画となっているか

### (2) 自己点検・評価結果

全学並びに各学群の教職課程科目は再課程認定の際に総点検を行い、問題がないことを確認した。今後も本自己点検や教職課程支援センター会議等を通じて充実と見直しを図っていく予定である。

## 8 シラバスの作成状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・教員養成の理念・計画に基づいた当該免許種の教育体系の中で、当該授業科目に与えられた役割を踏まえた授業目的、到達目標、方法、計画、成績評価基準、授業時間外学習の内容等がシラバスに明確に記載されているか

## (2) 自己点検・評価結果

教育の基礎的理解に関する科目等に区分される各科目の役割については、教職課程支援センター会議で確認・整理している。シラバスの記載に関しては、全学の方式に従って適切に対応しているが、教員養成の理念と計画における当該科目の役割がよりいっそう明確になるようシラバスの書き方を工夫する必要があり、今後教職課程支援センター会議を通じて確認を進めていく。

教科及び教科の指導法に関する科目に区分される科目については、第一義的には各学群のカリキュラムに沿って配置され、シラバスが作成されている。そのため教員養成の理念・計画に基づいた内容がシラバスに明確に記載されていない場合もあり、この点は改善していく必要がある。

## 9 アクティブ・ラーニングや ICT の活用など新たな手法の導入状況

### (1) 自己点検・評価項目

・授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングや ICT を活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか

### (2) 自己点検・評価結果

教育の基礎的理解に関する科目等に区分される科目については、パワーポイント、Google Workspace 等、Google 系の諸アプリケーション（スライド、フォーム、ジャムボード、クラスルーム）等を活用して、意見交換、発表、模擬授業を適宜行っている。

教科及び教科の指導法に関する科目に区分される科目については、実験科目や経営学等の専門科目でアクティブ・ラーニングを取り入れ、多様な学びが提供されている。また、データサイエンス系科目ではクラウド環境を利用した実践演習等、経済学の専門科目ではプログラミングを学ぶ授業が開設されており、ICT が積極的に導入されている。

## 10 個々の授業科目の見直しの状況

### (1) 自己点検・評価項目

・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて授業科目の充実が図られ、適切な見直しが行われているか

### (2) 自己点検・評価結果

学修成果や自己点検・評価の結果を踏まえて各授業科目の充実を図るプロセスは、本学では教育センター及び各学群で行われ、各教員はそれを踏まえてそれぞれが担当する授業科目の充実と見直しを行っている。教職課程については定例会における情報共有等を通じて充実や見直しを図ってきたが、今後は教職課程における自己点検・評価を基に教育センター、各学群と連携して教職課程に関わる科目の充実と見直しが行われるよう科目担当教員に働きかけていく

必要があると考えている。

#### 11 教職実践演習及び教育実習等の実施状況

##### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか
- ・実習先の選定状況はどうか

##### (2) 自己点検・評価結果

「教職実践演習」や「教育実習事前事後指導」についてはコンソーシアム等を通じて高知県教育委員会等と連携しつつ、本学教員が中心となって運営している。教育実習については、四国内においてはすべての実習校について教学全体で取り組み、各学群から指導教員を派遣している。一方、四国外の実習校については、当該実習校や本学の各学群又は教職課程担当教員から訪問希望があれば直接訪問して上記と同様に対応し、直接訪問することができない遠隔地等については電話やインターネットで可能な限り同様の対応をしている。なお、本学の学生は全国の広範囲から集まってきているため、将来は高知県外の地元に戻って教職に就くことを希望する学生の割合が高く、必然的に母校実習の割合が高くなっている。そのため四国外の実習校に対して四国内の実習校と同様の体制をいかに確保していくかが今後の課題である。なお、今後は同時に教員採用試験の3年次実施などの動向等にも対処する必要がある。

### 第3章 学修成果の把握・可視化

#### 1 成績評価に関する共通理解の構築

##### (1) 自己点検・評価項目

- ・同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか

##### (2) 自己点検・評価結果

該当科目なし

#### 2 教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況

##### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職課程登録状況、教員免許状の取得状況や教職への就職状況はどうか
- ・「履修カルテ」において学修成果を可視化し、適切に活用できているか

##### (2) 自己点検・評価結果

- ・令和5年度末の教職課程登録状況  
学士課程：1年生 67名、2年生 46名、3年生 57名、4年生（過年度含む）

57名

修士課程：1年生3名、2年生8名

・令和5年度教員免許状の取得状況

高等学校教諭一種免許状（公民）10名、高等学校教諭一種免許状（工業）3名、高等学校教諭一種免許状（数学）19名、高等学校教諭一種免許状（理科）13名、中学校教諭一種免許状（社会）4名、中学校教諭一種免許状（数学）18名、中学校教諭一種免許状（理科）10名、のべ77名

・令和5年度の就職状況

【公立学校・自治体】高知県（中学・数学）、東京都（中高・数学）三重県（中学・理科）、和歌山県（中学・数学）島根県（中学・数学）、大分県（中学・数学）3名、計8名

【私立学校】高知県（中高・数学）、高知県（中高・理科）、計2名

【公立学校・常勤講師】高知市（特別支援）、三重県（中学・数学）2名、福井県（中高・数学）、京都府（高校・数学）、兵庫県（中高・数学）、神戸市（中学・理科）、広島県（高校・工業）、香川県（特別支援）、徳島県（中学・数学）、計10名

教職カルテについては、電子版「履修カルテ」は現在停止しているため活用できていない。卒業要件単位及び免許取得に必要な単位の修得状況並びに単位を修得した各科目の成績はポータル・システムで確認可能であるため、学生、教員、事務職員の三者において必要に応じ活用されている。「履修カルテ」システムの再稼働に向け現在検討を行っている。

### 3 成績評価の状況

#### (1) 自己点検・評価項目

・シラバスに記載された各授業科目の到達目標、成績評価基準に基づき、厳格な成績評価ができていますか

#### (2) 自己点検・評価結果

各科目の成績分布の状況については一覧に整理し学内で公開している。また一定の割合を超えて上位の成績を付与する場合には原則として教育センター長に理由を提出することとしている。このことは極端に甘い評価をつけることに対する一定の抑止力となっている。しかしながら、各科目において大学・学群における3つのポリシー並びに教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画に鑑みた適正な評価規準及び評価基準が設定されているか、またそれらに厳密に基づいて成績評価が行われているかということについては、初等・中等学校における場合と同様に、本学においても、教育センター等がPDCAサイクルに基づき不断に行うカリキュラムマネジメントの一環として確認し改

善していく必要がある。

## 第4章 教職員組織

### 1 教員の配置の状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか

#### (2) 自己点検・評価結果

全ての免許課程において教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。

### 2 教員の業績等

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・授業を担当する教員の研究実績と授業科目との関連は適切か
- ・学校現場等で実務経験のある教員を授業担当教員に配置しているか

#### (2) 自己点検・評価結果

概ね適切であると考えるが、一部の教科専門科目において近年の研究実績が十分とは言えない担当教員もいるため研究実績の積上げを促す必要がある。

学校現場等での実務経験のある本学専任教員及び教育委員会から派遣された教員等を各教科指導法等の科目において授業担当者として配置している。

### 3 職員の配置状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職課程の実施のため事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか

#### (2) 自己点検・評価結果

令和6年3月現在、教務部教職課程支援室として香美キャンパスに4名、永国寺キャンパスに2名の職員を配置しており、教職課程登録者数（香美キャンパス161名、永国寺キャンパス77名）に対し十分な数の職員を配置できている。

### 4 FD・SDの実施状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職課程を担う教職員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが適切に実施されているか

- ・中教審の動きや法令改正等の動向が必要に応じ共有できているか

#### (2) 自己点検・評価結果

教員の資質を確保するための全学的取組みとして、授業・教育に関しては、教員評価システムとリンクした授業評価制度により各教員に対して改善への刺激を与えるとともに、講演等によるFD研修会の実施、「SPOD（四国地区大

学教職員能力開発ネットワーク)」等の研修会への参加促進などを行っている。研究に関しても、研究を教員評価システムとリンクさせて刺激を与えるとともに、科研費獲得のための組織的支援等を行っている。

職員は大学教務実践研究会が主催する教員免許事務担当者講習会等の研修会に参加し、教職事務の手續や関連法規の知識を習得するようにしている。なお、令和5年度には3名がのべ16件の研修会に参加した。

令和6年度から教職課程支援センター員の教員に対して、法令改正や教職定例会議の内容を共有していく予定である。

## 第5章 情報公表

- 1 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況
  - (1) 自己点検・評価項目
    - ・法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか
  - (2) 自己点検・評価結果
    - 大学ホームページの情報公開のページにおいて、学校教育法施行規則、教育職員免許法施行規則で定められた事項を公表している。
- 2 学修成果に関する情報公表の状況
  - (1) 自己点検・評価項目
    - ・大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか
  - (2) 自己点検・評価結果
    - 教員採用試験合格実績の点において、卒業生数が少ない理工系大学としては十分に大学の教員養成の役割を果たしていると考えている。また「教職実践演習」の授業において教員に求められる資質・能力に関する学生による自己評価を毎年実施しており、その結果によれば観点毎に評価の高低はあるものの、最も高いもので平均4点以上（5件法）、最も低いものでも同3点以上の評価となっており、概ね本学が教職課程修了時に身に付けておくべきと考えている資質・能力を備えた卒業生を輩出できていると考えている。
- 3 教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況
  - (1) 自己点検・評価項目
    - ・根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか
  - (2) 自己点検・評価結果
    - 令和5年度までの自己点検・評価結果について、根拠となる資料やデータ等

を示しつつ、大学ホームページで公開している。

## 第6章 教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

### 1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか
- ・教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか

#### (2) 自己点検・評価結果

大学ホームページにて教育職員免許法施行規則第22条の6に基づく情報公開、またパンフレット等冊子体においてその他教職課程に関連する情報提供を行っている。さらに、オープンキャンパスにおいては、教職課程ブースを設け、より詳しく本学教職課程についての紹介を教職課程履修学生が中心となって行っている。また新入生オリエンテーションでは、教職に就くという希望を持って入学した学生はもとより、本学に教職課程があることを知らない学生や教職課程そのものについて知らない学生に対しても情報提供を行うべく、教職課程の説明会の実施及び本学教職課程を紹介するリーフレットの配布を行っている。なお教職課程支援センター員及び教育センター員等を通じて、教職課程の各種情報提供に関する各学群との連携協力をいっそう強化することが望まれる。

毎年1年次の教職課程科目の授業中に実施しているアンケートにおいては、将来の進路として教員となることを強く希望する学生（希望の度合いを0-100%で尋ねた際に80%以上と回答した者）の割合がおよそ三分の二を占めており、単なる資格取得を目的とするのではなくこれから学んでいく専門を活かして教師になりたいという強い希望を持った学生を教職課程に受け入れることができていると考えている。

### 2 学生に対する履修指導の実施状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか
- ・「履修カルテ」を適切に活用できているか

#### (2) 自己点検・評価結果

各学群においては、研究室配属前の1～3年生の間はアドバイザー教員が、研究室配属後は指導教員が、学生の現状を十分に理解し、学修意欲を喚起するような履修指導を行うよう努めることとなっている。また教職課程においては、

教職課程支援センターと教職定例会により、1年次から4年次まで全学年の履修指導を定期的かつ体系的に行っている。『学生便覧』と『教職課程履修ガイド』による履修案内に加えて、各年次に事務職員からの指導と教職教員からの指導をセメスターごとに対応するスケジュールに基づいて実施している。

電子版「履修カルテ」は現在停止しているため活用できていない。卒業要件単位及び免許取得に必要な単位の修得状況並びに単位を修得した各科目の成績はポータル・システムで確認可能なため、現在はこれを履修指導に活用している。なお「履修カルテ」システムの再稼働に向けて現在検討を行っている。

### 3 学生に対する進路指導の実施状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・学生のニーズに応じた進路指導が行えているか
- ・教職を目指す学生が使用する教職課程支援室に適切な本等が整備されているか

#### (2) 自己点検・評価結果

各学群においては、指導教員が学生の状況と意思を十分に理解し、進路指導を行うよう努めることになっている。教職課程では、概ね二週間に一度の教職定例会において学生の個別の事情について報告し情報共有をするとともに、教職の道を諦めたり教職課程の辞退を考えたりする学生に対しては個別の面談と事情聴取を行い、適切な対応をしている。また、3年次には進路に関するアンケートを行い、教職を希望する学生に対しては、希望する学校種・教科・自治体等に応じたきめ細かな支援を行っている。これに加えて一部学群で独自に教員採用試験対策を行っている。

両キャンパスの教職課程支援室には、教科書、指導書、教員採用試験に関する情報誌、参考書、問題集、各種情報検索用PC等を備えている。

## 第7章 関係機関等との連携

### 1 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況

#### (1) 自己点検・評価項目

- ・教育課程の充実や、学生への指導の充実を目的に、高知県教育委員会等と適切に連携・交流を図ることができているか

#### (2) 自己点検・評価結果

高知県内の教職課程を有する4大学と高知県教育委員会、高知県教育センターで構成される「教師教育コンソーシアム高知」において、教育の質の向上、課題解決に向けた情報交換と交流を行っている。本学教職課程担当の各教員は、県や市町村の教育委員会や個別の学校における各種の審議会・委員会の委員等

を務め、また情報や理科の教育支援を行うなど、学校現場との連携を行っている。一方、県や市町村の教育委員会からは毎年「教職実践演習」等の科目において非常勤講師や特別講師等として出講いただいている。

## 2 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・実習前後や実習中において実習校と連携し、学生の実習が適切に実施できるようにしているか
- ・学校サポーター活動や学習ボランティア活動等の学校体験活動等を学生に提供できているか

### (2) 自己点検・評価結果

原則として四国内の実習校に対しては、直接本学から担当教員が実習校と連絡を密に取ったうえで、現地訪問して実習指導を行っている。四国外の実習校については、当該実習校や本学の各学群又は教職課程担当教員から訪問希望があれば、直接訪問して上記と同様に対応し、直接訪問できない遠隔地等については、電話やインターネットで可能な限り同様の対応をしている。四国外の実習校との協力体制をいかに充実させていくかが今後の課題である。

本学独自の学校ボランティア制度である「学校サポーター制度」についてはコロナ禍により中断を余儀なくされていたが、現在、再開に向けて準備を行っている。

## 3 学外の多様な人材の活用状況

### (1) 自己点検・評価項目

- ・教育課程の充実を目的に、高知県教育委員会等と連携して外部人材を非常勤講師や特別講師として活用できているか

### (2) 自己点検・評価結果

「教師教育コンソーシアム高知」を通じて高知県教育センターから指導主事が派遣されている「教職実践演習」をはじめ、各教科の指導法に係る科目、「教育実習事前事後指導」等の科目及び介護等体験事前指導において、高知県教育委員会等との連携により非常勤講師や特別講師として外部人材に出講いただいている。